

1Tp-27(P) 社会環境と服装

○長塚こずえ 橋詰静子

(東京家政大短大)

【目的】世紀末をむかえ生活環境が大きく変わろうとしている中で、衣生活も過去に見られたような流行現象は影をひそめ、個人の嗜好や感性により服装を自由に表現する傾向がみられる。特に若者の間では、さまざまなかたちで、だらしな系と呼ばれるルーズファッションが登場している。この現象を服飾を学ぶ女子学生がどのように受け止めているかを調査し、時代に対応した衣生活を考えるための手掛りを得ることを目的とした。

【方法】東京家政大学短期大学部服飾美術科1年60名(全科目自由選択 ファッション造形〔洋服〕・被服実習履修者)、2年63名(モデリストコース 服飾特講履修者)を対象に「ルーズファッションについて」調査を依頼し、レポートを提出してもらった。参考資料として新聞に掲載された『対立討論』を示し、家族・友人等を含め10人の意見をインタビューしたうえで、自分の考えをまとめるように指示をした。

【結果】K氏派の《「主張」なく理解不能》と考える学生に比べ、W氏派の《バンカラ学生と同じ》と考えた学生が多く、ファッションを含めた生活全般が自由なイメージの強い1年生より、2年間服飾に関して多岐にわたって学んだ2年生の方が服装については自由を求める傾向が強くみられた。K氏派では、だらしない・個性がない、W氏派では、個人

の自由、かっこいい、おしゃれ、誰にも迷惑をかけていないのよ  
いという意見が多い。

学年	Y氏派		中立派		K氏派		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1年	36	60.0	11	18.3	13	21.7	60	100
2年	46	73.0	7	11.1	10	15.9	63	100